

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500195
法人名	有限会社 ジョウジマ
事業所名	グループホーム伊万里
所在地	佐賀県伊万里市二里町八谷瀬781-1 (電話)0955-20-4585

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年9月30日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(平成20年9月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.6 人

(2)建物概要

建物構造	平屋造り
------	------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4)利用者の概要(9月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小島病院、小副川医院、上田歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>認知症介護の必要性を実感し多機能、居宅介護支援の他のサービスを併設した住宅街に設立されたホームである。玄関には各々のサービスの表札が掲げられ一軒の家として存在している。代表者を始め職員は、認知症に対する理解、思いやりが対話、態度に見られ日々の介護に生かされている。認知症介護と共に命を預かっているという認識の下、地域医療、医療連携体制も十分に確保され家族の安心へも繋がっている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点はなかったが、これに甘んじる事なく、日々の努力を惜しまず一層の質の向上に向けた取組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己、外部評価の意義は全職員理解し、まず各々が自己評価を持ち寄りスタッフ会議でまとめた経緯があり介護に対する振り返りの良い機会と受け止めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回定期的に行政も含めた各メンバーが出席し開催されている。一方的な報告形式のみに終らずその時々議事も明瞭に決められ有意義、活発な情報提供、意見交換の場として定着している。認知症に対しての理解の浸透に努力し議事録もきちんと整理がなされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関先に苦情箱の設置と共に「苦情解決の仕組みの概要図」も準備がなされているが家族とのコミュニケーションが密に出来ているという点で現在に至る迄それを利用するには及んでいない。要望等は即対処する方針である。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会加入、回覧板も廻り町内会各種行事へも参加したり参加して頂いたりと交流を深めている。又、地域の高齢者災害避難場所としての指定もあり、町内ふれあい町作り協議会のメンバーでもある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に密着した自然な分かりやすい言葉でスタッフルーム及び、居間兼食堂に木板による理念が明示されている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行う事で意識付けを行いこれからの介護の実践に生かそうと日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の各種行事等にも参加するなど、地域住民の一員として交流している。また、事業所は地区高齢者災害避難場所にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己、外部評価の意義は全職員が理解しその評価に甘んじる事なくサービスの質の向上に努力を惜しまない積極的な姿勢が窺える。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一方的な報告のみに終らず目的をもった有意義な会議が定期的開催され疑問、質問、意見、要望等きちんと整理しそれをサービス向上に生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のコミュニティケア会議に出席し情報収集、意見交換を行っている。又、認知症介護に対する講師役を引き受ける等行政との連携は保たれ、それを生かしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎の「便り」が広報委員により作成配布され生活の様子や誕生者紹介、又、今後の行事予定等を写真入りで報告している。又、面会時を利用して日常的な報告にも努めている。	○	職員の離職や交代は、入居者だけでなく家族にとっても大きな不安であり、安心の為に発行している便りを利用する等して家族への紹介、報告についての配慮も期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置もあり苦情処理に対する概要図の準備もなされている。運営推進会議との連携も加わり意見、要望等を素直に聞き運営に反映させ様とする姿勢がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員配置は原則的に固定し、馴染みの関係作りを念頭に置いた介護に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入居者本位のサービスの実践を図るため内外の研修も段階に応じて積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催のコミュニティケア会議や外部での研修会等で交流を持ち切磋琢磨してサービスの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や体験入居等で雰囲気に馴染んでもらい、各関係者も含めて相談納得の上、入居決定となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者中心の介護に努め強制は行わない方針で本人のペースを優先している。個々の個性を大切に、その人らしく実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これ迄の生活歴、入居者の要望、行動、顔の表情又、関係者から真意をくみ取る努力がなされ入居者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望等は職員が共有し、それらの情報を取り入れた解り易い具体的な介護計画が立案されている。作成された介護計画は家族へも説明がなされ同意の捺印も得られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しだけでなく新たな問題発生時には入居者、家族、関係者と話し合いその都度計画を修正している。計画に対する実施の評価もきちんと行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診介助や医療連携体制の充実にも努めている。入院時には、家族に代わって付添いを行う等柔軟に対応している。認知症デイサービス事業が併設され他の福祉サービスとの連携も確保されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々のかかりつけ医を大切に受診の支援がなされている。健康診断も兼ね月1回の定期受診が行われている。24時間体制の協力医療機関の確保があり重度化、終末期における支援の充実に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けたホーム独自の方針、指針を作成している。認知症の進行、身体機能低下の前から重度化された場合のあり方について主治医も含めて関係者と頻りに小会議を行い今後の方針の共有に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取扱いには秘守義務を徹底し、入浴、排泄時は尊厳を失わない声かけ、態度に徹している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	安心して自分らしくを目標に入居者の身体適応に応じた又、顔の表情、言葉から本人のペースを優先し決して強制はしない介護に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器も家庭的な陶器のものを使用している。食事の前にはその日の代表者が献立の発表と感謝の挨拶を行ってから食している。職員も同じテーブルを囲み会話をしながら食事介助もさりげなく行なわれ楽しみな一つとなる様な支援の仕方である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴出来る様に準備がなされている。これ迄の生活リズムを大切にし夜間の入浴も八時位までなら可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これ迄の生活歴等を参考にしながら自然に出来た役割分担(茶碗拭き、掃除、洗濯物整理)で自分の出番があり活動出来る喜び生きがいの持てるような日々の支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日食材の買出しに気分転換も兼ねて外出している。又、県外迄足を延ばしたり、片道1~2時間位の外出もあり途中で外食を楽しんで帰る事もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員は鍵をかける事への弊害を充分理解しており日中は施錠がなく自由に出入りが出来る。玄関を出る入居者がいた時は職員が察知し悪天候でも傍に付き添い見守る支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定した防災避難訓練が入居者共々年2回地元消防団の参加の下実施されている。地域高齢者避難としての場所提供も行い地元消防団の協力体制も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食は入居者の希望もあるが夕食は調理師による献立である。各々の状況に応じた食事形態の提供である。食事、水分摂取量も各々日々解り易く記録され職員間で共有がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ木のぬくもりが全体を包み随所に椅子、ソファ、畳、掘りコタツの設置があり思い々にくつろぐことが出来る。台所、浴室も明るく手すりの設備もなされ装飾、調度品、広さ共家庭的である。手作りカレンダー時計は時の見当識にも役立っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、障子、お縁、廊下と家庭の間取りを思わせる各々に合った部屋の提供である。居室には馴染みの鏡台、仏壇、ベット、布団、整理タンス等生活に必要な物品の持ち込みがある。箒、塵取りもあり自室の清掃で生活リハビリの一助にもなり家族と共に居心地よく過ごす工夫をしている。家族の宿泊も可能である。		